

浜嶋です。
こんにちは。

5日に行ったモンキーブリッジの解体時にヒヤリハットを体験しました。
大きな事故のもとになるヒヤリハットの情報を共有したいと思います。
ブリッジの柱の一つが倒れました。その音に気付くと砂場で遊んでいた3名の子供たちが
すぐ近くで背を向けていたのです。柱は砂場には届いていません。

解体は、もう一つの柱を倒す作業から行いました。鉄杭を抜き、外側のロープを引っ張り
ながらゆっくり中央に倒しました。

その柱から手摺のロープを外し、次の柱の順番です。まだ、柱の根元が鉄杭と番線で結ば
れています。自立できている状態でした。自立していたことが油断を生みました。こちら
辺りから、統制が取れなくなっていたのでしょうか。砂場で遊んでいる子供たちの存在には
全員気づいています。距離はあり、危険という意識はありません。

「危ないよ」という距離ではないと判断しています。でも、声をかけてもっと離しておか
ないと子供から柱の下に飛び出すかもしれません。このことはあとから気づいたことです。
今回のヒヤリは、柱が倒れてしまったことで全員が驚いたということです。もし、下に子
供たちがいたら大きな事故になっていたことを想像すると冷や汗がでました。

鉄杭を外す作業していましたが、柱を支える担当がいなかったことです。ロープがしっか
り引っ張られていなく、鉄杭が外れたことで、外側に自然に倒れてしまったのです。柱を
支えながらゆっくり倒すのが本来の方法です。

これ以上は不明ですが、仮に子供でなくても作業をしている大人が柱の外側にいれば、そ
の上に倒れていたと考えられます。

今後は、作業に慣れることなく、今回の体験を肝に銘じて、安全に作業を行うようにし
ましょう。